

防災問題研究会

JFEスチールの防災事例紹介と工場見学

JFEスチール京浜地区のご協力を戴き、昨年の三菱重工業本牧地区に続き、第2回目の防災事例紹介と工場見学を12月14日に実施した。

京浜地区では、365日24時間体制で毎日約2,000トンの銑鉄を作り、目的にあわせて製鋼し、厚板、薄板、溶接管などを製造している。

防災上の特徴としては、最高1,700℃に達する高温の鉄を製造・加工している関係から、約1,400ヶ所で火を使っており、特に、安全と防火には注意を払っている。従業員同士でかわす挨拶は「ご安全に！」であり、現場の従業員一人ひとりの教育と訓練に力が入られている。このことは、各現場の防災組織が、分担を特に決めておらず、リーダーの指示に従い、誰でも何でも迅速に出来るようになっていることから窺えた。また、鉄鉱石や石炭の輸送用コンベアは、総延長距離70Kmに及び、保守を怠ると火災の原因ともなるため、「マイコンベア制度」を取り入れ、コンベアごと



防災事例を説明する杉澤環境・防災室長

に保守点検担当者を決めている。

工場見学では、スケールの大きさと、約1,000mに及ぶ薄板鋼板を作る熱間圧延の機械が僅か5人でオペレーションされているなど、どの工程もかなり自動化が進んでいるという説明に、参加者は感心された。

防災事例紹介と工場見学の後には懇親会を行い、困った時は企業の垣根を越えて何でも相談できる人間関係づくりを行った。(文責 事務局)